

第73回愛労連臨時大会 議長あいさつ

2026年1月25日
愛労連 議長 西尾美沙子

臨時大会に結集されたみなさん、おはようございます。愛労連議長の西尾美沙子です。2026年春闘がスタートします。今、私たちの暮らしは、まさに正念場に立たされています。

実質賃金は11カ月連続でマイナス。物価だけがどんどん上がり、働く人々の生活は削り取られています。組合員のみなさんから寄せられる声は、本当に切実です。

「コンビニのコーヒーを買うのが今の私の唯一の贅沢」「お昼はコンビニ弁当すら高く買えない」「電気代を節約するために、暖房をつけず布団にくるまって動かずに過ごしている」「お米が高くて買えない、スーパーの割引品しか選べない」。

いつからこの国は、食べたいものも、欲しいものも買えない国になってしまったのでしょうか。特に深刻なのは高齢者の貧困です。65歳以上の5人に1人が貧困。さらに、単身高齢女性に至っては、その半数弱が貧困に陥っています。これは決して個人の責任ではありません。現役時代の低賃金、男女の賃金格差、そして不十分な年金制度という「構造的な問題」が、高齢期の生活を直撃しているのです。

私たちの足元、愛知県の状況はどうでしょうか。愛知の男女賃金格差は、全国ワースト5位という極めて不名誉な状況です。正規であっても、女性の賃金は男性のわずか78%にとどまっています。さらに、非正規労働者の7割以上が、1年や3カ月といった雇用の定めがある「有期雇用」です。何度も契約を更新しながら必死に働いても、最後は「雇い止め」という不安が常に付きまとう。公共の現場でも、会計年度任用職員の公募制度によって、長年貢献してきた労働者が職を追われる事態が今なお起きています。

年収200万円未満の世帯が12%を超える。こうした「働く貧困層」が増え続けている現実を、私たちは怒りを持って直視し、変えなければなりません。

一方で、大企業はどうでしょうか。「失われた30年」と言われる間、大企業の純利益は16倍、配当は10倍、内部留保は3.5倍に膨れ上がりました。昨年の内部留保は過去最高、ついに600兆円に届こうとしています。しかし、私たちの給与はわずか1.1倍。実質賃金は過去最低の410.8万円です。企業は富を溜め込み、働く人間には還元しない。これは明確な「搾取」です。そして、それを放置し、助長してきた自公政権の12年間で、内部留保は227.9兆円も積み増されました。私たちの暮らしがこれほどまでに厳しいのは、政治の責任に他なりません。

高市首相は、国民の生活がこれほど苦しい中で、施政方針演説も行わず「大義なき解散」を強行しました。700億円もの税金をつぎ込み、選択的夫婦別姓や企業・団体献金を規制する政治資金規正法などの重要な法案をすべて廃案にして政治空白を作る。これは国

民をないがしろにしている証拠です。

さらに、医療費4兆円削減や病床削減といった社会保障の大改悪、武器輸出の解禁など、進めようとしているのは「戦争国家体制」への道です。

昨年12月、女性参政権獲得から80年を迎えました。市川房枝さん、平塚らいてうさんら先人たちが不断の努力と命がけで勝ち取った権利です。その節目に初の女性首相が誕生しましたが、その中身はどうでしょうか。伝統的家父長制を重んじ、選択的夫婦別姓に反対し、多様性を否定する政治。これはジェンダー平等の「大逆流」であり、歴史を後退させる高市政権に、私たちは、抗議の声を上げなければなりません。職場や地域で「政治トーク」を広げましょう。一人ひとりが関心を持つことが、厚いガラスの天井を打ち破る力になります。

だからこそ、この春闘が重要です。私たちは選挙と春闘を「両輪」として闘います。

26春闘の要求は

第一に、大幅賃上げ。正規は月額3万3千円以上、10%以上、非正規は時給250円以上17%以上の引き上げを求めます。そして最低賃金は、全国一律1,800円以上を今すぐ実現させる。

第二に、時短とジェンダー平等の実現。

第三に、社会保障の拡充と公共の再生。

第四に、平和と民主主義を守り、大軍拡・大增税を止める。

第五に、対話と学びあいで仲間を増やす。

1月31日の名駅ビッグアクション、2月の家計簿調査、そして2月11日のトヨタ総行動。愛知から賃上げの大きな風を吹かせましょう。職場では「いくらあれば普通に暮らせるか」を徹底的に議論し、要求書を提出しましょう。納得のいかない回答には、ストライキという労働者の正当な権利を構えて毅然と立ち向かう。その行動が社会を変え、歴史を動かしてきました。「国民春闘」として、すべての労働者、年金生活者の生活を底上げするために闘おうではありませんか。

最後に、何よりも大切な「組織拡大」について訴えます。

現在、愛知の組織率は21.1%。しかし愛労連としては厳しい状況が続いています。

労働現場では非正規労働者や女性の割合がますます高まっています。低賃金と格差に苦しむ人たちを組織することなくして、真の賃上げもジェンダー平等も実現しません。「対話」を軸に、一人でも多くの仲間を迎え入れましょう。正義を持ってたたかう行動こそが、歴史を変える唯一の道です。

春闘勝利、そして7月の定期大会を、圧倒的な増勢で迎えようではありませんか。

「おかしい」と思うことには声を上げ、大幅賃上げを勝ち取る。その決意を固めあい、私のあいさつといたします。共に頑張りましょう！

以上